重要文化財

万徳寺多宝塔
及び鎮守堂
保存修理工事

多宝塔の桧皮葺を解体したところ

鎮守堂の桧皮葺を解体したところ

屋根の檜皮葺（ひわだぶき）を葺き替えました

多宝塔と鎮守堂の屋根は、ヒノキの皮（檜皮（ひわだ））で葺かれた檜皮葺です。現在の屋根は平成２年（1990）の修理で葺かれたもので、約30年経過して劣化が進んだため、伝統的な技術と材料を用いて葺き替えました。

檜皮を葺き替えているところ

檜皮を葺き替えました
屋根に取り付いているのは足場です

鎮守堂の丹塗（にぬり）を塗り替えています

現状の塗装を掻き落としました

鎮守堂は、丹と呼ばれる顔料を、膠（にかわ）で溶いた伝統的な塗料が塗られています。
現在の塗装は昭和35年（1960）の修理で塗られたもので、約60年経過して劣化が進んだため、伝統的な技術と材料を用いて塗り替えます。写真は、現在塗られている塗装を掻き落としているところです。

修理方針	屋根葺替（檜皮葺） 塗装・部分修理
工事期間	令和元年10月～ 令和２年６月

文化財愛護

修理現場から 文化力 POWER OF CULTURE

本工事は国・愛知県・稲沢市の補助を得て実施しています

むなふだ

明治時代に行われた多宝塔の修理の棟札が見つかりました

明治36～37年（1903～1904）に行われた多宝塔の修理の記録を記した棟札（むなふだ）が、屋根の中から見つかりました。棟札は高さ約63㎝、幅約28㎝、厚さ約3㎝のヒノキの板で、修理の年代と工事関係者の名前が墨書で記載されています。
修理の内容は記されていませんが、現状の建物を観察すると、柱など主要な部材に明治時代の新しい材料が確認出来ます。そのような部材は、建物が建った状態では取り替えることが出来ないので、明治の修理は、建物を全て分解して、傷んだ部材を取り替えて建て直す「解体修理」が行われたと推測できます。

工事請負人である鈴木幸右衛門は、明治12年の旧三重県庁舎（明治村に移築）や、明治44年の東本願寺勅使門で大工棟梁を務めました。
修理の設計は、安藤時蔵と塩野庄四郎が担当しました。安藤時蔵は明治30年代に行われた滋賀県内にある多数の文化財修理、塩野庄四郎は大正３年の京都銀閣の修理を手掛けました。

▲棟札の裏面合成写真

▲棟札の表面合成写真

（表面）

特別保護建造物修理工事
萬徳寺塔婆

着手　明治三十六年十一月一日
竣工　明治三十七年五月三十日

（裏面）

工事主管　愛知縣知事　深野一三
主任　愛知縣属　津金胤義
仝内務部才一課長
愛知縣参事官　深野錬太郎
嘱託監督　塩野庄四郎
工事請負人　鈴木幸右ヱ門
修理補助費下附
明治三十六年六月二十一日
嘱託監督
滋賀縣技師　安藤時蔵
萬徳寺住職　光松尭秀

▲棟札の内容